

速報

平成 24 年会計士第 II 回短答式試験 (5/27 実施)

出題分析と次回への対策

LEC 会計士講座講師 高野博幸

<全体講評>

今回は、前回の試験に比べると難易度としてはそこまで変わらないかなという印象を受けました。企業法・財務会計については比較的点数を伸ばしやすい問題でした。一方で、監査論・管理会計については難しくなり、全体としてはなかなか点数を取りきれない状況だったといえます。今回の合格ラインは、受験案内に明示されているとおり、原則として 12 月試験と同じ合格ラインになるであろうことが想定されるため、70%になると考えられます。ただし、「原則として 12 月と合格ラインを同じにする」という記載であるため、可能性としては低いとは思いますが場合によっては変動する可能性もあることにご留意ください。

なお、予備校の解答を使って自己採点をして合格ラインに達していなかった場合でも、実際の解答で採点をし直すと合格しているという可能性があります。たとえば 12 月の試験においては、全員正解という問題もありました。

◇自己採点で 68%程度以上の方

合格してから後悔しても遅いため、今回 68%などのある程度以上の点数が取れた方は、8 月の論文式試験の学習に進んで問題ないといえます。短答式試験を受験するために一定期間、短答対策に専念されている方が多いかと思います。できる限り早く論文式試験対策の学習にのぞみ、その遅れを取り戻す必要があります。ただ、心配はいりません。短答式試験を受験していることで、計算力については相対的に高いと考えられるため、全体としてはそこまで差がついていないはずです。是非やるべきことをしっかりコツコツとこなしていきましょう。

◇自己採点で 68%程度以下の方

68%程度まで達していない方は、やはり今回の結果については少し厳しい面もあるかと思えます。論文式試験は年に 1 回しかないため、次の 12 月・5 月の短答式試験の合格、そして 8 月の論文式試験の合格を目指すことになります。12 月の短答式試験については、8 月の論文式試験までまだ時間があるため、ある程度短答式試験に特化した対策でも問題は無いといえます。5 月～12 月は 7 ヶ月間あり、比較的期間も長いいため落ち着いて今の自分の苦手としている科目・分野に時間を使い、実力の底上げを図るとよいと思います。

いずれにせよ、今回の結果はしっかりと振り返ってみる必要があります。その1つの方法として、予備校が各問に対する正答率を出しているリサーチデータを利用することができます。自分が間違えた問題の正答率がどの程度なのかを見てみましょう。正答率50%以上であれば、それはしっかり正解できなければならない問題です。50%以下であれば、それはみなできていない問題なので、正答できなくてもよいでしょう。そういった分析を通し、基礎力が足りないのか、応用力・演習が足りないのかを把握しましょう。

以下に簡単に各科目の講評を記載しておきました。是非今回の結果をうまくいかして、公認会計士試験の合格を勝ち取りましょう！

<企業法>

全体的な難易度としては普通ですが、前年12月と比較するとパッと見たときの感覚で難しく感じたかもしれません。非常に難しい問題が1問程度、中程度の問題が4問程度あったようなので、中程度の問題を半分正解したとすると、85点程度とれる計算となります。

ただ、ケアレスミスその他あるかと思えますので、できれば80点以上でアドバンテージを取りたい問題でした。問題としては、アの選択肢に少し難しそうな内容が入っていたため、どうしても難しそうに感じてしまうものもありました。また、あまり見たことのない用語があったり、通常ひっかけるところではないところで間違いの肢をつくったりと、少し難しくしようという問題への工夫があったように思います。ただ、実際に解いてみると、他の選択肢で難しい選択肢を考慮する必要がなくなることもあり、そういった意味ではどれだけ冷静に問題に取り組めたかにもよると思います。

そうはいつても、解くためには「正確な知識」が問われる問題が多かったため、オーソドックスな学習を行いつつも、知識を正確に理解・暗記することを意識する必要があるかと思えます。

<管理会計>

全体的な難易度としては、前回に比べ難しかったといえるでしょう。2ページ以上にわたるボリュームの多い問題、判断に迷うような難しい問題が多くあり、また簡単な問題でも少しひねってくることによって難しく見せている印象を受けました。また、管理会計の知識のみならず、資料の読み取り能力や問題で問われていることの把握をしっかりと行うべき問題が多かったように思います。あとで見ると簡単でも、緊張感や時間制限がある中で解くには難しい問題であったといえます。今回もかなりの計算力とスピードが必要になるといえます。勘で正解できる問題もあることを踏まえると、6割5分前後の正答がほしい問題だったといえると思います。

<監査論>

全体的な難易度としては、難しめだったといえるでしょう。今回は基準が変わったことで、そこからの出題もありました。さらに、変更された基準の中でも主要な点以外からも出題されているため、そういったところをしっかりと押さえてないと正解に至るのは難しい

といえるでしょう。さらに、絶対的な自信を持って正誤を判断した問題の答えが実は違うことがあると、実際の正解を導くことが困難であった可能性もあります。こういったところから、思いのほか点数が伸び悩むことも考えられます。他の科目を踏まえると **6割5分~7割程度の正答はほしい問題**でした。今後の学習としては与えられたものをしっかりこなし、余裕があれば一度基準を通読してみるとよいでしょう。

<財務会計>

今回の問題の難易度は**比較的普通だった**といえるでしょう。計算問題については、前回の難易度が非常に高かったのに対して解きやすい問題が増えました。理論の問題については前回と同じような難易度であり、そこまで時間がかかる難しい問題というわけではありませんでした。ケアレスミスなく、しっかり問題を解いていけば、ある程度点数を積み重ねることができる問題だったといえるでしょう。そのため他の科目の難易度を踏まえ、計算では**7割程度**、理論では**8割程度の正解**を目標とし、**財務会計全体で7割4分程度の正解が必要になるか**と思います。